

平成 30 年度

第 1 回 恵那市総合計画推進市民委員会 会議録

日時：平成 30 年 9 月 21 日（金）

午後 2 時 00 分～午後 3 時 57 分

場所：恵那市役所 西庁舎 3 階 災害対策室

1. 委嘱書の交付
 2. 自己紹介
 3. 会長・副会長の選任
 4. 会長・副会長あいさつ
 5. 市長あいさつ
 6. 会議の公開、公表について（確認）
 7. 議 事
 - (1) 総合計画の概要及び推進市民委員会の役割について
 - ① 恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱 資料 NO. 1
 - ② 第 2 次恵那市総合計画（詳細版、概要版） 資料 NO. 2
 - ③ 第 2 次恵那市総合計画実施計画（平成 30 年改訂版） 資料 NO. 3
 - 【参考】
 - ④ 恵那市将来人口推計結果 資料 NO. 4
 - ⑤ 恵那市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン 資料 NO. 5
 - ⑥ 恵那市まち・ひと・しごと創生総合戦略 資料 NO. 6
 - (2) 推進市民委員会による総合計画の進行管理について
平成 29 年度施策・事業実績シート 資料 NO. 7
 - (3) 総合計画等に対する委員からの提案について（意見交換）
総合計画推進市民委員会提案シート 資料 NO. 8
8. その他
移住定住推進事業の見直しについて
9. 閉会のあいさつ

1. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 資料の確認をする。郵送で配布した本日使用する資料が 9 点ある。会議次第、資料 1 の総合計画推進市民委員会設置要綱、資料 2 の第 2 次総合計画詳細版と概要版、資料 3 の第 2 次総合計画実施計画の 30 年改訂版、資料 4 の将来人口推計結果、資料 5 のまち・ひと・しごと創生人口ビジョン、資料 6 のまち・ひと・しごと創生総合戦略、資料 7 の施策・事業実績シート、資料 8 の提案シート。本日追加資料で机上に配布した、移住定住推進事業の見直しについて。不足はないか。

定刻になったので平成 30 年度第 1 回恵那市総合計画推進市民委員会を開催する。私は本日進行を務める企画課長の柘植です。次第に沿って進める。

■事務局（進行） 委嘱書を交付する。自席で御起立の上受け取ってください。

[市長から委嘱書を交付]

2. 自己紹介

■事務局（進行） ありがとうございます。委員から自己紹介をしていただく。名簿の順でお願いします。

■市川委員 大井町に住んでいる。商工会議所から来た。よろしくお願いします。

■伊藤委員 連合岐阜東濃地域協議会となっているが、デンソーテン、元の富士通テンで働きながら、産休も取り、もう 28 年ぐらいになる。嫁ぎ先が恵那で恵那に住んで 25 年になる。

■奥村委員 公募で参加している。公募委員は最終的に私 1 人で残念だが、できる限りお手伝いしたい。

■加藤委員 社会福祉協議会でお世話になっている。日頃は地域福祉事業でお世話になっている。

■澤田委員 串原地域の会長の会長をしている。

■芝田委員 恵南商工会女性部明智支部の支部長をしている。資料をたくさんいただき読んできた。皆さん頑張っているなので少しでも力になりたい。

■鈴木委員 ハローワーク恵那の鈴木です。日頃は職業安定行政に御協力いただき大変感謝している。微力だが尽力したい。

■服部委員 中部大学の服部です。専門は都市デザインとまちづくり。微力ながら協力したい。

- 渡辺委員 十六銀行恵那支店に 4 月の異動で来た。精一杯務めたい。明日からみのじみのり祭りで私たちも初めてみこしで参加し、地域のために頑張ろうと思っている。
- 事務局（進行） 執行部から自己紹介する。
- 市長 小坂です。冒頭だけで失礼するが、活発な意見をいただきたい。
- 副市長 大塩です。よろしくお願いします。
- 教育長 大畑です。よろしくお願いします。少子化とそれに伴う学校の小規模化が深刻である。委員に御指導、御助言いただきたい。途中で中座させていただく。
- 総務部長 4 月から総務部長を務めている安藤です。
- 市民サービス部長 松村です。よろしくお願いします。
- 医療福祉部長 可知です。よろしくお願いします。
- 商工観光部長 加藤です。よろしくお願いします。
- 農林部長 林です。よろしくお願いします。
- 建設部長 光岡です。よろしくお願いします。
- 水道環境部長 小林です。よろしくお願いします。
- 副教育長 児玉です。よろしくお願いします。
- 教育委員会事務局長 加藤です。よろしくお願いします。
- 消防長 小木曾です。よろしくお願いします。
- まちづくり企画部長 この委員会を担当している。服部です。よろしくお願いします。
- 事務局（進行） 事務局の紹介をする。企画課長の柘植です。
- 事務局 課長補佐の和田です。よろしくお願いします。
- 事務局 企画課の磯村です。よろしくお願いします。
- 事務局 企画課の総合計画を担当している瀨瀬です。よろしくお願いします。
- 事務局 企画課の山田です。よろしくお願いします。

3. 会長・副会長の選任

- 事務局（進行） 会長・副会長の選任を行う。恵那市総合計画推進市民委員会設置要綱第 5 条により、会長は委員の互選で、副会長は会長が指名することになっている。いかがするか。
- 加藤委員 事務局案があればお願いします。
- 事務局（進行） 事務局案という声をいただいたので推薦してもよいか。
では、会長には中部大学の服部先生を推薦する。よろしいでしょうか。
〔 拍手する者あり 〕
- 事務局（進行） ありがとうございます。服部会長は席を移動してください。

副会長を会長から指名してください。

■会長 委員が新しくなった。昨年まで委員を経験されている澤田委員にお願いしたいが、いかがか。

[拍手する者あり]

■事務局（進行） 澤田委員には会長の指名と皆様の承認があったので席を移動してください。

4. 会長・副会長あいさつ

■事務局（進行） それでは会長、副会長から一言ずつごあいさつをいただく。

■会長 中部大学は恵那市にキャンパスがある。本校は春日井市にあるが。日頃から恵那市にお世話になっている。その縁でこの委員会をサポートさせていただくよう声をかけていただいた。恵那市の総合計画をどう推進していくかという非常に重要な仕事だ。市民から率直な忌憚（きたん）のない意見をいただきながら、生きた計画になっていくために、作った後が大事なので、推進とその後の見直し、次の計画につなげていく意味で、こういう会議は非常に重要だ。微力ながら皆様に協力いただきながら進めていきたい。

■副会長 副会長という大役を仰せつかった。経験といっても昨年 1 年だ。一生懸命務めたい。

5. 市長あいさつ

■事務局（進行） 市長からあいさつをする。

■市長 お集まりいただきありがとうございます。2 カ年の委員をお願いする。服部会長、澤田副会長には責任が重い厳しい役をお願いすることになった。

恵那市は合併して 14 年になる。いろいろな事業に取り組んできたが、一番の課題は何といても人口減少、少子高齢化だ。毎年約 1%の人口が減っており、未来をどう見据えていくかが一番大きなテーマだ。船で例えるなら羅針盤、航海図で、大切な役割を示すこの会議だ。

日本全体が少子高齢化、人口減少の中にある。都市で暮らす人々を支えるものはすべて地方から供給されている。そうした地方が今後疲弊して生活や経済が成り立たなくなっていく中で、都市だけが生き残れるわけではない。都市と地方が助け合って生きていくものだし、地方があって都市が成り立つ。そういう意味で、日本全体で取り組むべき課題だが、私たちは恵那市の中で何ができるか。これはほかの市も含めて新たな挑戦だ。戦後 70 数年経っているが、かつてない人口減少に私たちはどう取り組んでいくか。これを挑戦と位置

付け、できることをどういうふうにやっていくか、このテーブルで議論していただきたい。活発な意見を交わしていただき、私どもはそれを参考にして少しでも実行に移し、結果を出していきたい。

■事務局（進行） 市長は他の公務のためここで退席する。

6. 会議の公開、公表について（確認）

■事務局（進行） 本日の会議は、恵那市審議会等の会議の公開に関する指針により、公開及び会議録の公表を行う。本日の会議の終了は午後4時を予定している。

これより議事に入る。議事進行は会長にお願いする。本日は第1回目の会議なので事務局からの説明が多くあるが、資料の事前配布により目を通されていると思うので、事務局からの説明は極力簡潔に行い、委員の提案、意見に時間を取りたい。

7. 議事

（1）総合計画の概要及び推進市民委員会の役割について

■会長 会議自体は軽やかに行い闊達に意見交換をしていきたい。御協力をお願いしたい。

議事次第には3つある。最初に総合計画の概要、委員会の役割。次に、進行状況。最後に委員からの提案をいただきながら意見交換をする。1と2は資料がたくさんある。全部目を通すのは大変なことなのでポイントを絞り意見交換に時間を取る。意見交換は委員全員必ず発言いただく。総合計画についてはあるが、資料にないことで日頃から思っていること、自分の職域に関すること、個人的に思っていることでもいいので、発言してほしい。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 質問等あるか。ないようだが、質問は後ほどでも良いのでお願いします。

（2）推進市民委員会による総合計画の進行管理について

■会長 説明をお願いします。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 実績シートの見方と、ポイントを置いている 2 つの施策の説明をいただいた。質問があれば。

私から質問する。たとえば子育ての満足度が下がっている。その分析がピーアールというのにつながったのだが、その分析はどのようにしたのか。

■医療福祉部長 私どもとしても、10 ポイント減少しているというのは本当に残念な結果だ。全体に落ちてきたという要因はまず、「良い」から「普通」、「やや良い」から「普通」に移ったもの。「普通」から「やや悪い」に移ったもの。そういう形で数字が変わっているところをまず分析した。

この要因を探す上で、子育て環境が良いと感じているという設問以外に、不安要因も調査している。「過去 1 年間で困った・不安を感じたことはありますか」というものの中に子育てに関する設問がある。身近な相談相手の有無、子どもの保育・学童保育の体制、子どもの成長・教育、子どもの移動手段、小児医療体制といった設問をしている。すべて不安の数字が下がっている。要するに、不安を感じている人が減っている。

それから、今後、将来的に不安を感じることはありませんかという設問でも、不安が少なくなっている。ただしその中で、子どもの成長・教育というところは若干上がっている。

やはり、不安が解消されるが環境が良くないという、矛盾がある結果が出ている。環境という話になると、そもそも制度を知らない人がいるのではないかという分析をした。その結果、子育ての制度を、チラシを作ったり、ホームページをもっと見やすくするとか、今年始めたのは、「大きくなあれ」という子育てのハンドブックを作り、QRコードを全部つけて、知りたい項目からホームページに全部飛ぶようにしている。そういう形でピーアールしようと努力している。

■会長 議論し始めるといくらでも議論できる話だ。指標の分析と言ったとき、どこまで委員会に分析内容を出しながら議論のネタを出してくれるのかなというところが、また事務局と御相談いただいて、社会減が増えているということも、どういう理由で増えているのか。その人の属性を分析するとまた出てくると思う。属性がすごく影響する場合もある。数百人単位だと、建物が 1 つなくなる、できるというだけで変わってくるところもある。どういう分析をしているかを出していただきながら、議論の糧にしていきたい。

■奥村委員 私の理解の仕方が悪いのかもしれないが、そもそも総合計画推進市民委員会の理念や目的は、ぼんやりとしか私には分からない。それはさておき、どこまで何をやるのか。2 回目になると聞いているが、1 回目での資料やデータ、問題のピックアップをしたということで理解していいのか。膨大な資料を、御苦労されたと思うが、微に入り細に入りまとめている。これを 1 回目でやられたという理解でいいか。

2 回目は何をやるのか。アクションプランまでやるのか。何かコミットすることについて確認し合いたいということなのか。

■会長 2回目とは。この委員会は今年度初めてだが。去年のことか。

■奥村委員 この委員会は今回初めてなのか。第2次と書いてあるが、これは市全体の計画の話ですよ。では話を戻す。ここで相当苦勞されているいろいろな問題提起をされている。あるいは解析されている。こういう資料を基に、改めてどこまで何をやるのか。ミッションは何なのか。

■会長 すごく大事な点だ。総合計画の進捗管理と説明されたが、進捗管理とは何なのか。総合計画自体を見直すのか、進捗しているかどうかを評価するだけなのか。もうちょっと具体的に提案をするのか。そこがまだ伝わってないので補足してほしい。

■奥村委員 どこまでやるのか説明してほしい。

■事務局 総合計画推進市民委員会の性格は、まず1つ、進行管理。これは、実績シートで、恵那市が総合計画に基づいて行った事業の実績をここで掲げている。目標指標をすべての施策に対して掲げており、それが達成しているものも多くあるがしていないものも多数ある。達成していないものについて、提案の形になるが、実績を評価しながら、もう少しこういった事業を取り入れた方がいいとか、もう少し転換した方がいいとか、提言・意見を言っていただきたいというのがこの委員会の役割だ。第2次総合計画は平成27年度に策定し、28年度からスタートしている。事業を見直しながらやってきているのだが、市役所目線だけではうまくいかないところがある。総合計画推進市民委員会のほかにも市にはいろいろな審議会・委員会がある。そうしたところにもいろいろな意見を聞きながら、少しでも総合計画が実のあるものになるように、一般市民の目線で見させていただいて、市役所にいろいろな意見をいただきたいというものである。

■奥村委員 ここでまとめた施策の検証と同時に新たな提案も含めてやっていくということで理解していいか。

■事務局 その通りだ。

(3) 総合計画等に対する委員からの提案について (意見交換)

■会長 3つ目の議題に入る。説明はあるか。

■事務局 特にはないが、限られた時間の中なので、本日の会議で言い足りないことがあれば資料8のシートに記入して後日提出してほしい。

■会長 これから意見をいただきたいが、言い足らなかったことや後で思いついたことがあれば後日提案シートでいただいても良い。意見のある人はどうぞ。

■芝田委員 ピーアールが足りないと言われたが、私たちは子育てはもう終わったが、移住定住という資料を見ると、これを知らない人が多いと思う。いろいろな補助がたくさんある。残念だ。これもピーアールしてほしい。

■まちづくり企画部長 移住定住の関係は、即効性のある人口減少対策として、前期 5 年間のうちですぐ結果が出るようなものやっつけていこうということで、年間約 1 億円かけて、財源は人口減少対策基金を使う前提で始めている。今年で 3 年目。本当に即効性があるのか、ピーアールが足りないのか。移住定住につなげるインセンティブが重要な事業なので、そういったところは本当にやっつけていかなければならないし、足りていないと感じている。それを含めてこの件については、本日、別で資料を配布させていただいたので後ほど細かく説明する。この件に関しては特に力を入れ、大きな予算をかけてやっつけているがピーアールが足りないことは承知している。

■会長 ピーアールというのは言うは易しで、実は難しい施策で、自治体が一番不得意としている。ピーアールを本当にやっている自治体は数少ない。子育てについても、施策を知ってもらうのか、自分たちがどういうサービスを受けているのか自体を分かっていないということがある。ほかと比べてどうなのかということに気付くこと自体がピーアールだということもある。ピーアールの仕方にはいろいろな工夫がある。一言で片づけられない。

■伊藤委員 こうした子育てに関するお知らせなどは委員になれば見ることはできるが、そうでない人は全く触れることもない。ただ私の経験では、なぜ出産率が少なくなっているのかという根本的なところがある。まず、育てられないという低所得者がとても多い。そういうところに関する不安。それから、預けた場合に、市では保育園が足りているというが、自分の近くに預けられる人ばかりではない。市内でも遠いところに回されることもあり、そうなるとう本当に大変だ。そういうのも含めて産むのがハードルが高いということがある。私も未満児を 2 人預けていた。給料をほぼ回していた。せっかく働きながら預けたとしても、何のために働いているのか考えてしまった。産んで育てる人の目線で、こういう制度があるので使いながら、教えていただきながら、出産時にそういうものを配ってもらえるとか、そういうところを工夫してもらうことも一つだ。結婚すれば、婚姻届を出したときにピーアールするとか。その場その場で先駆けるようにしたらもっと良くなると思う。

■会長 コメントはあるか。

■医療福祉部長 子育てに関するお知らせは、出生届が出たときにチラシなどは配っている。ただ、生まれたときの状況と、生まれた子どもがこども園に入るタイミングの状況が違う場合があり、そのあたりのピーアールの仕方については、先ほど会長が言われたようにいろいろあると思う。できることはやっているが、私どもで足りない部分もあるかと思う。

■会長 単に施策のピーアールだけではなく、見通しが立たない不安が一番大きい。特に若い世代は先々が全然見えなくて不安になる。ライフステージ全体を見通して、ちょっとライフプランを立てて見ようというサポートをするとかなりよくなる。そういう民間サー

ビスもある。気が付きを得られる機会を設けるというのも、ピアールに負けず劣らず大事だ。ピアールは幅広い部分もあるが、どういうところまでやっていくのか検討するとよい。

■市川委員 この会議以外にもいろいろな会議でよく聞く内容もあり、一つ一つ細かくできている。ただ、先ほどの話でもあったように、検証するときの仕方が本当に市民一人一人の声がキャッチできているのかが気になる。子育て、移住定住、ピアールの話に全部つながってくる。私は観光に携わっているが、恵那市の中を一生懸命見るが、外からの目線で見ると外からのニュース、外からの評価で気づくことが、実際に住んでいる人にとってはすごく大きい。具体的には、子育て世代なら、知るチャンスは、情報は紙ベースのものやウェブだったりするが、基本的に読む時間がない。本当に時間がなく資金もない。今はいろいろなアプリが出ており、それにより分かたりする。一番最先端の技術を使ったもので簡単に知れるもの。言うならば10代の人が一番使っているアプリなどからヒントを得たもので知れる、OKグーグルも一つで、知ることには労力を使わないものだと思います。子育ての情報だけでなく、ほかのことに関しても同じだ。

■会長 PRの手段、周知の手段が多様化してきている。従来通りのパンフレットを作ったからいいというものではないというところはある。アプリやSNS、一番ターゲットにする人が利用している媒体は何かとか。今言われたことで大事な点は、時間のないかつかつなところでやっている人がいる中で、多様な情報を提供しても無駄なところもあるということ。その辺の情報手段の選択・研究が大事だという御意見だと思う。

■加藤委員 子育ての施策については、東濃5市の中でも充足しているという話があった。これは、いろいろな団体が自主的に活動されていたり、市の施策でも行っているということだ。しかしながら、実際多くありすぎてどこへ行ったらいいのかわからない。いっぱいあるけど自分がどうしたらいいのかわからないというような、高齢の世代もそうだが、自分の求めるものがピンポイントで分かるようになってきているのかということを感じる。

私の息子もそうだが、結婚して住むのは瑞浪のアパートだ。職場の人もそういう人がいる。瑞浪は未満児で保育園に預けて3歳になると抽選だそう。同じ園にずっと行けるわけではない。恵那ではずっと行ける。もしかしたら職場から遠くなるかもしれないし、替わるリスクがあるが、なぜ瑞浪かと聞くと、安いわけではなく、JRの終電が遅いからということだ。

ボランティアの目標数値が達成していたのは関係機関として有り難いと思う。

地震や災害でこのたび長時間の停電が私の地域でもあった。夫は自主避難をするのに朝からバタバタしていた。その中で、先般自治会の訓練もあったようだ。自治会に入ってない人が一人で暮らしており高齢者だというとき、災害があったときそこの見守りをどうするか。放っておけないが、そこに誰が住んでいるのかわからなければどうすることもでき

きない。というので、防災と自治会を関連付けて、自治会に加入していただけるような取り組みをしていくのも手だと思う。

■会長 事務局から何かあるか。

■副市長 以前経済部にいたのでJRのことは承知している。このことは私も副市長になってから、中津川のJRの駅長に、瑞浪までは最低でも20分おきにあり、一番多い時間帯は10分おきにあるため、それを中津川まで延ばしてくれないかということをお話したが、乗降客の数によって本数を出しているのでも十分にやっているという言い方をされた。今後、リニアでかなりの人がリニアの基地に入る。この人の輸送は、JRとしては鉄道輸送も考えているようなので、もしかしたら期待ができるかもしれない。

■まちづくり企画部長 先ほどピアールの方法で、市川委員の言われた、知ることに労力を使っているということが心にしみた。確かにこちらは提供しているつもりだが、本当に情報がほしい人にいかに伝えられるかという目線でよく考えてみたい。サービスの情報についても、高齢者や若い人も含めて情報提供がどういう形であるべきかは一度よく考えたい。

それから自治会未加入のことは、周辺部まで及んでいるということだが、中心部はもっと深刻な問題になっている。特に大井・長島の中心部では、地域ごとのまちづくりを進めていただいている中で、防災といったところが一番力を入れており、提案のあった防災を一つの切り口として、加入促進も進めていけるようなことを関係者の中でも協議していければと思う。

■奥村委員 ピアールの話に関係するが、先ほどもネットの話が出た。テレビでいろいろなコマーシャルに触れていると思うが、広域性を追求する行政の立場としては、ピアールを企業と同じような手法でやるということについて、少し距離があるのかもしれない。企業がやっているようなことをそのままやるべきだということではなく、いろいろな手法が多岐にわたっている。たとえば、検索数によって子育て支援にかかわる情報が、こちらが要求していないのにいきなり出てくるとか。あるいはビッグデータがベースになっていると思うが、ネットで子育て支援を知りたいと思ったら、最近若い人はほとんどすべてネットで調べると思う。そうすると恵那市だけの情報ではなく関連した情報も出てくる。多岐にわたっていることを行政セクターとして考えていく必要がある。

その前に出た移住定住についても、移住があつてその次に定住が来ると思うが、移住というのは外から入ってくるのだから、今後のリニアの話も踏まえて、例えば東京、名古屋、大阪から移住ということをお考えたとき、従来の機能として、県の東京事務所を使ってネットに結びつけるとか何かアクションを行うということもあるだろう。お金がかかるかもしれないが、効果を検証し、企業の手法も相互に乗り入れることも必要だと思う。これはすべてに言えることだ。

■まちづくり企画部長 先ほどの関連もあるため、一度よく検討していきたい。デジタルデバイスが使える人は、提案のあったSNS、ホームページなどで自分の興味のある事柄が出てくる。現在、市のホームページもリプレイス時期になり検討している。市のホームページもスマホに対応していないので見直しを考えている。そういうタイミングで大変良い意見をいただいたので参考にしながら検討したい。

■伊藤委員 先ほど瑞浪に住む人が多いと言われたが、私の会社でも派遣の人をたくさん採っているが、皆さん瑞浪が多い。瑞浪はアパートが多く住む場所が多い。恵那はアパートも少なく、家を建てるのになかなか土地がなく難しいとも聞く。やはり住居の問題が一つある。

中津川市も水道料金が低い。なぜかという、面積が広いということで、山の上のほうに住んでいる人などもあり、維持管理を考えるとどうしても1軒の負担が高くなると聞く。瑞浪、多治見は小さい中で凝縮されているので、一人あたりが安くなると聞く。そういうことも少しずつコンパクトにすればもう少し安く住めるかもしれないと思うが、ただ、中津川市もそうだが、他から入ってきていただける移住定住者には課題もあり難しいところがあるようだ。移住定住に特化するというより、総合的に考えたとき、人口表を見ても64歳までの人が多く、その人たちに長生きしてもらうことも一つかと思う。そこで健康促進に結び付け、ここに住むと長生きできるといううたい文句もほしい。健康に特化できる取り組みがあればお聞きしたい。

■副市長 瑞浪に住宅がたくさんあるのは、ソニーが撤退したことに関係していると思われる。しかし最近、アイシンAWが瑞浪に進出して、住宅はかなり満杯の状況ではないかと思われる。瑞浪と比べ恵那の家賃価格帯も1万円ぐらい高かった。そのことがあり、入ってもらったときの住宅家賃補助を2年前から行っている。しかし、ピーアールが足りないようだ。

■建設部長 私ども建設部では住宅施策に取り組んでいる。長い市政の中で、積極的に行政が住宅を施策として取り組んだのは、公営住宅の整備ではあったが、それ以外に、たとえば住宅団地を造るようなことに取り組んだことはない。市営住宅は9割ぐらいしか埋まっていない。普通のアパート経営は95%以上ないとまずいと言われる。公営住宅には古い住宅もかなりたくさんある。それを更新しながら、入っていただきやすい住宅にしようと、昨年までは市外の住所の人は公営住宅に入れなかったという要件があったが、今年6月の議会にて要件を緩和し、市外の人も恵那市の住宅に入れるようにしたところ、申し込みが何人かある状況である。この件に関しては一定の効果が出ている。

もう一つは、住宅やアパートが建ちにくいという状況があるだろうということで、たとえば開発をしている不動産業者に意見を求めて、どういったところに問題があるのか、また、住宅を含めた支援は何かできないかなどを考えている。一つとして、水道料金の中で

特に大きい加入分担金について検討している。また、具体的に事業として行っているのが、正家第二区画整理で、商業地の開発と併せて住宅地を 60 区画造っていただくことに着手している。こうしたことに取り組みながら、住宅が建ちやすい、アパートもできやすいということを目指していきたい。

■渡辺委員 会社としては瑞浪にも支店がある。瑞浪はかなりの勢いでマンション、アパート、賃貸物件が建っているし、ホテルの誘致も積極的にやっているという話は聞こえている。恵那は、行政のこと以前に、かたい方が多く、不動産の有効活用にも保守的な人が多いように思われる。これは、周りに実績がないから二の足を踏んでいるんだと思う。瑞浪は以前からそういう流れができていたので進んでいるのではないか。ただ、大手のハウスメーカーからは、恵那市についても不動産の有効活用を希望する人があればどんどん教えてほしいと声がかかっている。その辺でうまくタッグが組め、うまく回っていけばいいと思う。

■会長 マーケットを温めるきっかけづくりも、発想の一つだと思う。

■奥村委員 新築でアパート、賃貸住宅投資をするというモデルは、銀行さんからは、投資という局面で見た場合の話などがあつたが、基本的に、新築の供給コースは年間 80 万戸。5、6 年前まで 100 万戸台を維持していたと思うが、住まいに対する考え方が変わってきたこともあるし、価格的な負担の問題もある。一方で空き家が 820 万戸で 5 年後ぐらいに 1200、1300 万戸になると言われている。特にアパート関係の行政から見た施策として、ここにスポットを当てるべきだという感じはする。私も恵那の街の中に住んでいるが、相当空き家になっている通りにいる。高齢者 2 人または 1 人住まいとか。都市計画の中で区画整理していくというのは究極の話になると思うが、やはりそういった住宅を活用して、リフォーム、リノベーションした優良の貸家を供給することがこれから課題になると思う。

恵那市はこれからここに軸足を置いていいと思う。現実に使われない住宅がどんどん増えているというのは、人口減も併せて、うまく組み合わせられないか。単身者向けの駅に近いところなら、古い建物の活用であっても利回りが相当あると思うので、そんなことを行政側も具体的に提案してもいいと思う。

■会長 中古住宅流通促進は総合計画では必ずしも明確にはうたっていないですね？住宅市場には自治体ではこれまでなかなか取り組んできていないが、空き家対策の法律ができて、中古流通と空き家対策が非常に重要になってきて、自治体も課題になってきているので、今の提言を受けてどうしていくのか検討いただければと思う。

■芝田委員 山岡、明智にも雇用促進がある。それもリフォームして賃貸で儲けたらどうなのか。老朽化していて無理なのか。一人暮らしのお年寄りには安くてちょうどいいのではないか。

■建設部長 雇用促進は山岡と大井町の雀子ヶ根にある。機構が持っており一括で売却し

た。現在は民間の会社が持っており賃貸している。当時から住んでいる人が今も住んでいる。一時期、雇用促進住宅だったときは、管理の方法と将来性がはっきりしないということで入居を制限していたが、現在はどこも入居を受け入れている。その会社が民間住宅として活用している。改めて市でということは考えていない。

■鈴木委員 人口減少対策について、たとえば学卒者いわゆる高校卒業後どうするかを考えたとき、人口減少の三大要因と言われる就職、進学、結婚、この就職と進学が人口に関連する。恵那市内の高等学校を卒業する人は約 450 名、そのうち就職する人が約 120 名いる。そのうち恵那市内の企業に就職する人が約 40 名。ほかの人は市外へ就職している。しかしながら、市外から市内の企業に就職する人がいるが 120 名には届かない。ここ数年のデータではそんなに大きく数字は変わっていない。

進学は、恵那高ではほぼ進学で、市外へ出る人が多い。そういう人が市外の企業に就職する。人口は減って当然ということになる。

新卒者が就職された後は、高校卒業した人の 40%は 3 年以内に離職する。大学を卒業した人の 30%が 3 年以内に離職する。過去約 30 年間状況は変わらない。

ということは、毎年卒業し就職する人を恵那市内に定着させるのは重要だと思うが、市外に出ていくことは何ともしがたい。では、どこに着目するかというと、大学、高校を卒業して就職して離職した人をどう恵那に戻し、就職していただくかである。そうすると、この恵那市の施策は先ほどから大変いいと思って見ているが、移住定住の件数が 1 年間に何人ということだが、若い人が辞めてそのときどう考えるか。選択肢として実家に戻るといのは当たり前だ。ここでいかにこの情報を彼らに伝えていくのが重要だと思う。

そこで何をすればいいのか。ここからは抽象的な言葉になるが、各市町村の魅力を考えると、人口構成比で見ても、恵那市は 60 歳から 69 歳の人口構成比がすごく大きくて、この先 15 年 20 年それが続き高齢者が増える。これは全国同じだ。高齢の人が元気で活躍しているということが魅力があるに違いない。それをどう見せていくのかも売りになると思う。

良薬はないと思われるため、少しずつこういうことの積み重ねが市としての魅力、移住定住につながると思う。

■会長 転職の U J I ターン者に対してどう雇用の場を確保して、それと移住定住施策をどう結び付けていくか。そこに恵那市の魅力をどうアピールしていくのかという提案だ。かなり複合的な話だが検討いただきたい。

■副会長 昨年推進市民委員会に参加して感じたことだが、30 名の委員が 3 つの部会に分かれて市に提言した。その中で、先ほどから話のある定住の問題、特にアパートの問題が出た。具体的な意見を紹介すると、一番ショックなのは、結婚すると恵那市のアパートがないので瑞浪に行ってしまう。瑞浪と恵那の違いを比較し、恵那の弱みを克服すれば恵那

に住む人が増えるだろう、という提言があった。

もう一つは月収の問題。25 万円くらいの人が恵那市に住むためのアパートがないということだった。

こういう提言があったが、今恵那市が取り組んでいる対策があったら教えてほしい。

■まちづくり企画部長 先ほどの回答と重複するかもしれない。正家第二区画整理も公共でやっているが、民間の宅地誘導についても、これから施策で打っていこうと考えている。家賃が高いということの原因も調べると、水道、下水道の分担金が近隣と比べてかなり格差があり、それがアパートで入居時に払うということにつながっていることが分かってきた。今年条例改正も含めて、その辺の水道、下水道の分担金のところも、近隣の市町村と合わせる形で見直し、結果的にアパート代や宅地取得が安価でできるように、間接的な取り組みを行っている。

■水道環境部長 恵那市街はまだいいが、少し離れた永田辺りでアパートを 10 軒建てると、水道の加入分担金が今 1 世帯 27 万+25 万で 52 万、これが 10 戸だと 520 万かかる。東濃でも一番高いので、今見直しを提案してパブリックコメント中だ。アパートなので 13 ミリの細い管でもいいということなら 4 万円代、これは東濃でほぼ一番安くなるぐらいにしたいと思っている。こうしたことによりアパートの家賃が安くなると期待する。

■奥村委員 水道代が恵那は高い。去年まで東京に住んでいた。イメージとして恵那市は倍だ。なぜ高いのか後々お聞きするとして、ハードとしての建物をどういう形で準備するかという話と、周辺のコスト、どういうところに分布させたらどういう人が入るかというところは、この資料にも網羅されているので、アパートを建設する地主の意向も含め、あるいは建設業者のコンセプトも含めて、そこを行政として、より一步進んだまとめというか、つなぎをしていくようなこと、企業にやらせることがほとんどかもしれないが、そういうことを行政側も積極的に、消費者に直接コミットするだけではなく企業にもコミットするようなことが、関連する話は今もかなり出たと思うので、基本的に必要だと思う。

■会長 私から一言申し上げる。資料 2 の総合計画のパンフレットで、人口目標が 47,400 人。推計で 45,100 人。その間を埋める 2,300 人という数字がどういう意味を持っているのか。すごく大きいと思う。47,400 人に決めているのは小学校がなくなるというところから決めているとすれば、必ずしも 2,300 人の検証ができているかわからないが、2,300 人を人口減の歯止めをすることでまかなう部分と、新規流入を促進することでまかなう部分と、どういう施策の重みづけとか役割分担で 2,300 人が実現できるのか。具体的に、たとえば住宅をいくつ造ると歯止めがなくなり、一方で新規の受け入れができて 2,300 人ができるのか。現実的な数字で、これだけ努力すれば実現できそうな数字だという対応関係がある程度検証されているなら、次の機会に 2,300 人をどう受け止めてそれを実現していくのかを意見交換できればと思う。

追加の議題があるので次に移る。

8. その他

移住定住推進事業の見直しについて

■事務局 移住定住推進の事業の細かいところを担当課である地域振興課から現状を説明する。この事業については、今後見直し等をかけていきたいと思っている。本日は説明をする。次回 11 月から 12 月にもう一度推進委員会を開催し、これに特化して御意見をいただきたいと思っている。

[事務局から資料に基づき説明]

■会長 次回この委員会を開くときに、今の話を中心に行いたいということだ。委員については、周辺の方々にも意見を聞いていただき、次回の委員会に向け各委員準備いただくといい。今日はこれまでとして事務局に進行を返す。

9. 閉会のあいさつ

■事務局（進行） 11 月から 12 月に第 2 回目の委員会を開催したい。特に若い人の意見を聞いていただいて次回臨んでいただくと有り難い。

副会長から閉会のあいさつをいただく。

■副会長 次回も活発な御意見を賜りたい。本日は御苦労さまでした。

[閉 会]